

第3回宮代町総合計画審議会議事録

1 開催日時

令和元年8月29日(木)午後7時00分～午後9時00分

2 開催場所

役場2階202会議室

3 出席者

(委員)

折原正英委員、吉澤久美子委員、並木誠委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、
佐々木誠会長、保科寧子委員、八木橋孝雄委員、高津絵里委員、松山仁委員

(欠席)

難波悠委員、鈴木和子委員、小林俊介委員

(事務局)

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

(関係職員)

石塚まちづくり建設課長、高橋主査

(コンサル)

牧野氏、菊地氏

4 次第

1 開会

2 検討状況と今後の会議について(資料1)

3 長所、短所発見シートまとめについて意見交換(資料2)

4 その他

5 閉会

5 議事（要旨）

（１）開会

（２）検討状況と今後の会議について（資料１）

検討状況と今後の会議について、事務局より資料１に基づき説明を行ったところ、以下のような疑義及び意見があった。

佐々木会長 本審議会では、第４次の後期計画を基に、第５次計画について検討を進めることになろうかと思う。多少柔軟に考える部分はあっても良いと思うが、大枠の部分では基本的には第４次の枠組みの中で考えていくことになる。一点、私から伺いたいのが、第４次計画の検証をどこかの時点で行う必要があるのではないかとということ。第４次の結果を受けて、良いところは残し、終わったところや問題のあるところを改善していくのが自然な流れではないか。また、第３次計画から第４次計画へ移行する際の検討過程などについても、可能な範囲で確認できれば良いのではないかと思うがいかがか。

事務局 当然第４次計画の評価は必要になると認識しており、既に各課から調書シートは上がってきている。これをもとに来週以降各課へのヒアリングを行っていく予定である。早ければ次回かその次の会議までには、第４次計画の評価結果についてご報告する予定である。

佐々木会長 第３次計画から第４次計画へ移行する時にどのあたりを変えられたのか、検討経過がわかる資料があれば参考にしたい。

事務局 それについても第４次計画の検証結果をご報告する際に合わせてお示ししたい。第３次計画と第４次計画の間の大きな違いは、総花的な内容だったものから本当に必要な内容に絞り込んだ計画にしたこと。第４次計画策定時の資料も残っているのでそれについては提供したい。

（３）長所、短所発見シートまとめについて意見交換（資料２）

長所、短所発見シートまとめについて、事務局より資料２に基づき説明を行ったところ、以下のような疑義及び意見があった。

折原委員 それぞれの意見の前に「審・宿」、「市・ワ」などの表記があるがこれは何のことか。

事務局 「審・宿」は審議会での宿題、「市・ワ」は市民ワークショップから出てきた意見ということである。

佐々木会長 市民ワークショップでも「強みは何ですか？」、「弱みは何ですか？」というような聞き方をしていたのか。

事務局 聞き方は若干異なるが、市民ワークショップでは「町の自慢」や「町

を良くするアイデア」などを聞いており、「町の自慢」は強み、「町を良くするアイデア」は機会など、内容をみてこちらで分類させていただいた。捉え方によっては強み・弱み、機会・脅威で裏腹のものもあるかと思うが、1つの切り口としてご覧いただきたい。

佐々木会長

私の方でいただいた情報を再整理した資料を作成してきた。強み・弱み等を色で置き換えている。プラス要因はオレンジ系、マイナス要因はブルー系、内部環境を同じ色でも薄く、外部環境を濃い色にしている。大きくヒト・モノ・コトで分けたうえで、似たようなものをまとめてグループ핑し、それぞれにキーワードを黄色で付けた。モノのうち施設系は特に多く、時間切れで分類しきれていないが、これはもう少し分類できそうである。全体としてはコトの関係が最も多く、他に分類できないものもコトに含めてある。

資料1の第5次総合計画の体系図があるが、この体系図の青枠の中を埋めていくのがこの審議会のゴールとなる。ただし、体系図の最上段にある「将来都市像」から考え始めてしまうと、第4次計画との違いが出にくくなると思われるため、本日はSWOT分析の資料をもとに、アクションプランレベルで皆さんに意見を出していただく形で検討を進めたい。出そろった意見を踏まえ、順に個別方針、基本構想、将来都市の具体像という流れで考えていきたい。

松山委員

現行計画の達成状況等について情報がないため、ここにあげられた意見の中でも、既にやっているもの、あるいは全く手つかずのものなど、我々はわからない。評価資料があれば、進んでいないものをどう補うか、新たな事業をどのように入れていくか議論しやすい。検討方法として、最初に町の将来像を決めて上から追い込んでいくやり方もあると思う。

八木橋委員

私も同じく、体系図で言えば最上段の将来像がないと考える方向性が見えず、何を目指して実行していくのか共通の理解を持ってないので意見を出しにくい。大まかでもいいので、こんな将来像を盛り込みたい、というものがあれば検討しやすいのではないか。

松山委員

財政的に厳しい時代なので、暮らしやすい、子どもやお年寄りに優しいなど、人の力、皆の協力でできるソフト面についての方向付けが必要ではないか。100年後も住み続けたい宮代町、そのためにはどうすればよいか、ということかと思う。

佐々木会長

SWOT分析を進める場合、最初に目標を立てて、分析を進めるなかで目標の達成が難しい場合は目標自体を変えることもあるようだ。はっきりとしたものではなかったかもしれないが、事務局で当初想定していた方向性はこういったものだったのか。

事務局

色々なやり方があると思うが、最初に目標とする旗を決めてしまうと考える幅が狭くなってしまいうのかなとも考え、今回はあまり型にはめないで、皆さんが日常生活の中で感じていること、ワークショップ等を通

じて気づかれたこと、町の外から見て感じる事など、自由に意見を出していただきたい。次回以降は将来都市像についても検討を進め、決めていきたい。

佐々木会長 それでは今回の資料についての感想でもよいのでまずはご意見を伺いたい。

八木橋委員 それでは感想になるが、「強み」については左上が自然に関すること、「機会」の真ん中の上の方にも自然がある。また、「強み」の左下は人間の情の部分が出てきており、「機会」の左下にも若い人やる気、町に活気がほしい、など人間的な部分があげられている。自然があって人間がいて、それに加えて「機会」としてはモノや環境、外部との関係があげられており、私なりに感じたのは町の財産はまず自然。次に豊かで楽しい人との関わり、そしてそれを支える施設等と外部との関係を含めた物的な環境が強みであり機会として認識すべきなのだろうと感じた。「弱み」についてはやや暗い印象で、数も少ない。「脅威」については課長ワークショップからの意見が多くなっている。自然、人情的なもの、物的な外とのつながりといったものを柱の中に入れていってはどうか。

佐々木会長 柱の議論はまた別の機会にさせていただいて、本日はより具体的なアクションプランに近い内容についてご検討いただきたい。

保科委員 機会のところ、「起業したい」、「スモールビジネスの事業環境を整えやすい」、「シニア起業」、「若い人のニュービジネス、小商いを支援」など、町を活性化させるような活動をしたい方が結構いるのではないかという印象を持った。うまく支援体制を整えられれば、町の活性化につながるのではないか。単なる店舗ではなく地域の問題を解決するようなソーシャルビジネスなどを行政が支援していけば、弱みとしてあげられている循環バスの問題などの解決につながるのではないか。他の地域では半分ボランティア、半分仕事で移送サービスを行っているところもあると聞く。すぐに結果に結びつかなかったとしても、そういった取り組みについて行政が相談にのり、支援していく体制があればやりたい人は集まるのではないか。

佐々木会長 関連する内容は「コト」の資料のキーワード、「職・起業」としてまとめた中にもプラス要因・マイナス要因ともに多くあげられている。交通の話も「モノ」の資料でみるとかなり多く意見があげられており、こちらもあわせてご覧いただきたい。

折原委員 資料をみるとモノよりコトの方が多い。お中元でも陶芸教室の参加権など、コトのお中元がトレンドになっているようだ。住民の自己実現を図ること、公共施設をうまく活かしながらそういった「コト」をどのように進めていくかという視点を持てば、より実現可能な計画につながるだろう。

八木橋委員 自然はモノでもあるが、体験という視点であればコトにもなるのでは

ないか。

佐々木会長 今回の資料は物理的な視点で分けた。農に関してはコトに分けており、おっしゃる通り自然も体験という視点ならコトに分けられるだろう。

吉澤委員 これからどこに焦点を当ててまとめていくかが大切。自然の評価が高い一方、駅前開発、病院整備など、相反する意見も多い。高齢者から子どもまでを考えた時に、何を一番大切にするのか。そのためにはやはりこれまでの取り組みの振り返りも必要。駅前開発など何十年も前から言っているが本当にそれを目指すのがいいことなのか、それとも自然環境を活かして田舎を売りにするなど、全く違う路線を目指すのか。今後のビジョンを考えるにあたって過渡期にきていると思う。

佐々木会長 町の総合計画なので偏っていてもいいのだろうか、と思う一方、第3次計画が総花的だったという話を聞くと、やはりメリハリは必要とも感じる。その中でも自然というキーワードがあり、また、職という点では宮代の中で仕事を見つけて町内で完結するという方向性があるのもいいと思う。

吉澤委員 時代背景も関係するが、以前は駅前が町の顔といって電柱をなくしたり、色々な取り組みに力を入れていた時期もあったが、最近は古民家的なものを売りにしてまちおこしを進めているような町もあるようだ。

佐々木会長 それらは融合できるのではないか。駅前に農地があるような、成城学園前の駅では駅のすぐそばに体験農園を整備していたり、銀座のビルの屋上で養蜂を行っているような例もある。

八木橋委員 生きている人間だからほっとする自然も必要な反面、病気にもなるし近くで買い物もしたい。両方が必要となる。

高津委員 テレビで見たが、遠くても町めぐりをして最後に大学の学食でご飯を食べるような楽しみ方も増えているようだ。何か目玉となるものがあれば人は動くのではないか。引っ越してきたときは駅前に何ができるのかと期待もしたが、車があれば近隣の町のショッピングモールにも行ってしまうので、若い世代にとって駅前はそれほど重要ではないのかもしれない。若くて自由に動ける人もいれば、高齢になってだんだん移動が困難になっている人もいる。先日、子どもが夏休みの宿題でトンボの絵を書かなければならず、インターネットで調べて国立科学博物館まで行った。目的があればインターネットで調べてでも来る人はいるはず。インターネット等を高齢者が使えないのであればそれを手助けしていく必要もあると思う。今後大きな災害がきた時に、仕事に行っている間子どもは誰が守ってくれるのか、高齢者はインターネットを見られない場合どうやって情報を探すのかなど不安がある。もう少し情報発信の仕方を工夫したり、スマートフォンの使い方を教えたりなど、手助けをしてくれる場所があればいいと思う。また、最近は例えばドングリなど、思いもよらないものがインターネットで売買されているようだ。

- 八木橋委員 先日も北千住から来た年配の方が新しい村で沢山の野菜を買って、マンションで他の住民に宮代産の野菜を紹介したという話を聞いた。良いと分かれば遠くからも来る。宮代らしさが大事。
- 保科委員 「ヒト」の資料には、子どもについてキーワードがたくさんあがっていて、自然や体験についてもたくさんあげられている。特に子どもにとっては体験が重要だと思う。自然体験ができるような仕掛けがあれば子どもは集まるのではないか。元々転校してまで通わせたい方がいるような小学校もあるので、そういった宮代町の良さを若い世代に知ってもらうきっかけになればいい。
- 八木橋委員 宮代には宿泊施設がないので、自然体験ができる民泊はどうか。農家は子どもが独立して高齢夫婦だけの世帯も多い。1回1家族限定でも受け入れる事ができれば、張り合いになるのではないか。農業体験・収穫体験もしてもらえばいい。
- 高津委員 廃校を再整備してキャンプ利用など、そういった事例は良く聞くので検討してみてもいいと思う。
- 松山委員 お寺の宿泊体験なども最近が多いようだ。
- 折原委員 農家は開放的に見えて、意外と他人を入れることに積極的ではない部分もあるかもしれない。個人的には町内には空き家アパートが多いので、例えば町が1年間でもアパートを借り上げて、都内在住者の二地域居住の拠点にすれば、良い循環が生まれるのではないか。
- 八木橋委員 農業体験で農家の協力を得るのは難しいか。
- 折原委員 出来なくはないかもしれないがハードルは高いように思う。
- 秋山委員 農業体験については例えば新しい村でってもらう方法も考えられるが、農家の方は良いものはだいたい外に出荷してしまうので結局地産地消がされていない。新しい村にあまり良い作物が入ってこないことが問題だと思う。最近はやりの特徴的な野菜を作っている方も、特定のレストランなどに出荷してしまうため、なかなか町内には出回らない。
- 八木橋委員 借りたアパートに宿泊してもらい、体験ツアーを提供することも考えられそうだ。
- 佐々木会長 必ずしも町が借り上げる必要はなく、ビジネスとして成り立つか検証は必要になるが、民間がサブリースするような手法も有り得る。農業体験、農家民泊については近年人気だが、プロモーションや発信の仕方が重要になる。初期投資もかなりかかるため、そこをどう考えるかも問題。ただし、アパートがあるのは市街化区域で農業体験をするのは市街化調整区域なので、市街化調整区域の空き家というのが1つの着眼点だとは思う。
- 折原委員 町内に市街化調整区域の空き家はあまりない。家作であれば多少はあるかもしれない。
- 佐々木会長 平屋の賃貸の戸建て住宅で、農家の余った敷地に建てられた住宅を家

作という。駅周辺にはあまりないが、駅から10分くらい離れると急に増える。

それではここでいったんテーマを絞りたい。先ほど人情という話も出たが、「ヒト」についてみていきたい。一口に人といっても高齢者、子ども、交流、活動、連携等様々な切り口があると思うがいかがか。

佐々木委員

資料を見て感じたのは、宮代の良さは人が優しいこと、私も暮らしていて人の温かみを感じるが、日工大生との関わりがまだまだ弱いのではないかと思う。学生の若い力がもっとまちづくりに活かされ、町民との関わりも増えればいいなと思う。

佐々木会長
秋山委員

確かにまとめの中にも日工大との連携が足りないとある。

宮代の人こんな人達、という情報が分かれば外から入ってくる人も選択しやすい。ぎすぎすしたまちなのか、そうではないのか、自分に合うのか合わないのか、判断材料がもっとあればイメージしやすい。「自然と都市が調和したまち」など環境的な情報だけでなく、それにプラスしてどんな人がいてどう暮らしているのかなどが分かるような情報があるといい。

佐々木会長

私が書き込んだ意見だが、宮代町はクリエイティブ市民を惹きつける要素が比較的多い。自然が多い、チェーン店が少ない、などの要素とも関連するが、クリエイティブな人が新たに何か始めやすい環境ということである。そういった方々が増えていけば町のイベント等ももっと盛り上がっていくのではないかと思う。

松山委員

町には元気な高齢者がたくさんいて、色々な特技、知識を持った方、何かやりたいという人も多い。農村部には伝統文化に詳しい方もたくさんいる。そういった方々がボランティアで何かを教えたり人の役に立てる場を町が提供する仕組みがあっても良いのではないか。隠れた才能や特技を掘り起こして活用していくことで、元気な高齢者のいる町として町外へのアピールにもつながる。

佐々木委員

例えば月曜日にはこの人がこれを教えてくれる、など、家でゲームばかりやるのではなく、おじいちゃんおばあちゃん世代から学ぶ機会を作っていくのは良いことだと思う。

吉澤委員

近年子どもたちの放課後の過ごし方が問題になっている。教育委員会でもモデル事業として、学校を開放して放課後の居場所を提供している。そういった場に地域の方の特技や知識を取り入れてってはどうか。宮代の子どもは素直でかわいい。あの子たちが自分達のまちの良いところをもっと語れるようになるような教育や取り組みがあればいい。

佐々木会長

子どもはプラス要因に分類される意見が多い。多世代交流という面では、第4次計画にも「小さな拠点から新たな展開」という方針があり、高齢者の事業が4つくらい掲載されているが、集会所を基本としているので学園台は学園台、農村部は農村部というように地域間での分断があ

るようにも思われる。色々な人の交流を目指すのであれば、進修館などを拠点とすることも考えられるのではないか

松山委員

そういった場合には町外の人でも参加できるようにして、インターネットを利用してどんどん発信して広がっていけば、魅力ある町のアピールにつながる。

佐々木会長

子どもは子ども、高齢者は高齢者ではなく、多世代の交流という意味では、前回になかったようなアクションプランが描けるのではないか。

それでは続いて「モノ」についてご意見を伺いたい。個人的に進修館に関するものが少なかったのは意外だった。市民ワークショップの場では交通に関する意見が多かった印象である。

折原委員

アクセスの面からみると半蔵門線への直通運転は非常に便利である。

佐々木会長

先ほど八木橋委員が仰ったように、左側の自然系はほぼプラス要因となっており、交通・立地や施設・空間についてはややマイナス要因が多い。循環バスへのコメントが多くあげられている。

佐々木委員

若い世代の方は車で移動できるので問題ないが、高齢者は昨今の運転の問題もあり、買い物など町内での移動手段で困っている方が多いということだと思う。

佐々木会長

将来的な免許返納についての不安もあるのだろう。交通に関してはMaaS、自動運転など、世の中の的にも非常に注目されているところ。この中にも無人バス、循環バスの他市町村乗り入れなど前向きな意見も出ているようだ。

その他いかがか。特に無いようなら続いて「コト」についてご意見を伺いたい。

保科委員

娘が古民家に興味があり、土間がある家に泊ってみたいらしい。強みのところに古民家があげられていたので、子ども達の体験という意味でも、昔の生活が体験できて宿泊できるようなところがあれば泊ってみみたい方はいるだろうか。

高津委員

個人的にはいいと思う。火起こしをして、かまどで炊いたご飯を食べるなど、生きた体験をすることは子どもの成長につながる。

佐々木会長

農家で土間やかまどが残っているところはあるか。そういった家で民泊を。

八木橋委員

かまど、土間のある家は探せばまだある。

佐々木会長

そういった家で民泊ができれば。

高津委員

映画やドラマのロケ地探しでそういった古民家について問い合わせはないのか。

佐々木会長

かまどがある農家を発掘して、ロケ等の誘致を積極的にやっていくのもありかもしれない。

八木橋委員

町で古民家を移築整備してはどうか。

松山委員

後継者がいない家を借り受けて改修するという手も。

- 保科委員 ドラマや映画の撮影で使われると、聖地巡礼で訪れた人が SNS で発信してくれる。
- 佐々木会長 宮代らしいところでは、農に関連したキーワードも多くあげられているがいかがか。
- 松山委員 宮代は東京から近い。新しい村に農業体験ができるのであれば、遠いクラインガルデンに行く必要もない。
- 佐々木会長 巨峰は新しい村に行けば買えるのか。
- 八木橋委員 新しい村で買える。または生産者のところへ直接買いに行く。
- 佐々木会長 通勤経路で巨峰を売っているのを見たことがない。もっと通勤・通学で町にくる人も容易に手に入れればいいと思う。
- 秋山委員 そもそも生産量が少ないのではないか。
- 並木委員 飲食について、町にはファミレスもなく、チェーン店も少ないが、意外とプラス要因が多くあげられている。後は情報発信の部分をどうするか。情報のところの「若い人に広報を読んでもらう」、イベントのところの「イベントをいかに日常化するか」というような意見を踏まえ、これらのことと飲食がコラボしていけば、町内の飲食に関する情報発信にもつながり、職・起業のところの「学生のアルバイト先がない」という問題点も改善されてくるのではないか。また、若手の起業についてプラス要因があげられており、まだまだ起業する場がある、伸び代があるということだと思う。商工会でも空き店舗対策で改装の融資制度をやっているが、あまり認知されておらずもったいない部分があるので、そういったところを改善していけば活性化につながるのではないか。
- 佐々木委員 宮代マルシェでも起業を応援するブースを6店舗分ぐらい確保しているが、まだまだ知られていない。起業への橋渡しになるような役割をマルシェとしてももっと頑張りたいと思う。
- 折原委員 食べ物の人を惹きつける力はすごい。フェイスブックに食べ物の情報をあげるとアクセスが一気に増える。食べ物は町の1つのキーポイントになるかもしれない。
- 高津委員 飲食店の駐車場に車が止めやすいかどうか行ってみないとわからないので困ることが多い。ベビーカーでうまくたどり着けるか、子どもは連れて行けるか、調べても情報がないことが多く、結局杉戸のファミレスに行ってしまう。マルシェも雨が降ったら、暑かったら、など考えると行きたくても行けなかったりする面もある。まず最初にインターネットでもう少し詳しい情報が手に入れば非常にありがたい。
- 松山委員 グルメマップを町で作って駐車場は何台止められるなど、情報をまとめて紙のものとホームページで公開するなどすればよいと思うが、町では何か作っていないのか。
- 高津委員 子育て関連の情報誌で近いものはあるが、もう少し情報が足りない部分がある。

- 佐々木会長 そういった情報がまとまっていればよいと思うが、それを行政がやるべきなのか、むしろ民間の方が柔軟な発想でよりニーズにあったものを作れるのではないか。
- 松山委員 日工大との交流はどう考えるか。うちは学園台なので母親などはよく校内に散歩に行ったり、一時期は女子学生の下宿も受け入れていた。他の地区の人はそもそも校内に入れないと思っている方も多いのではないか。もっと全町的に広く交流が進めばと思う。
- 佐々木会長
松山委員 市民ワークショップの際にも学食に入れることを知らない方がいた。あれだけの広大な施設、若い人もたくさんいて博物館にも入れるのに知られていないのはもったいない。
- 折原委員 学友会館のホールは素晴らしい施設なので、何か町として活用できるような連携の仕方があれば。
- 八木橋委員
佐々木会長 学友会館には泊れるところがある。一般利用できるといい。健康・医療、福祉、住などのキーワードがあげられているが、住で言えば学園台の高齢化率が50%を超えていて、空き家も増加している。昔つくられた住宅団地は一気に高齢化が進んでいくため、高齢者と若い世代の住み替えも含め、改善していくべき重要な課題と思われる。一方、健康・医療、福祉に関しては意外と意見が少ない。
- 事務局 人にもよるが、やはり介護保険制度が手厚いということも大きいと思う。
- 折原委員 老人ホームが3つもある町はなかなかないと思う。
- 佐々木会長 意外と観光に関するキーワードが少なかった。
- 秋山委員 住んでいる方からは観光はわかりにくいのではないか。
- 佐々木会長 課長ワークショップ、審議会委員などでは町外の方も多少はいたと思うが。
- 秋山委員 例えば山崎山は住民にとっては当たり前のものであって、観光資源になるのかどうか生活の中ではあまり考えない。コト消費についても何が受けるのか、住んでいる人は気づきにくいだろう。
- 折原委員 全体的な感想として、弱みについてももう少し取り上げてもいいのではないか。ネガティブな部分を改善するという点では、もう少し弱みをきちんと分析して強みに変えていくような見方も必要だと思う。
- 佐々木会長 例えば人口が少ないということはある面では強みであり、予算規模が小さいという点では弱みになるのだと思う。
- 保科委員 「イベントが多い」ということが強みと弱み両方にあるのはどのような解釈をすればよいのか。
- 佐々木会長 弱みとしては、イベントが多すぎると運営側が疲れてしまうのではないかということが一つある。
- 八木橋委員 違う主体で同じようなイベントをやっていることがある。イルミネーションも2か所でやっていて、もう少し横の連携をとってやった方が良

いのではないか。

佐々木会長 昨年の3月は土曜日に進修館祭り、次の日に台風で順延になったトウ
ブコフェスティバルが2日連続で開催された。

事務局 役場でやっているイベントに関してはご指摘の通り連携できるものは
連携していくべきだが、民間がやっているものは主旨が違うのでなかなか
難しい面もあると思う。

(4) その他

第2回審議会議事録について、修正を行ったためご確認をお願いしたい旨、事務局よ
り説明があった。

次回会議は9月26日(木)に開催予定。

(5) 閉会

以上